

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) ダイセルポリマー(株) 広畑工場

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

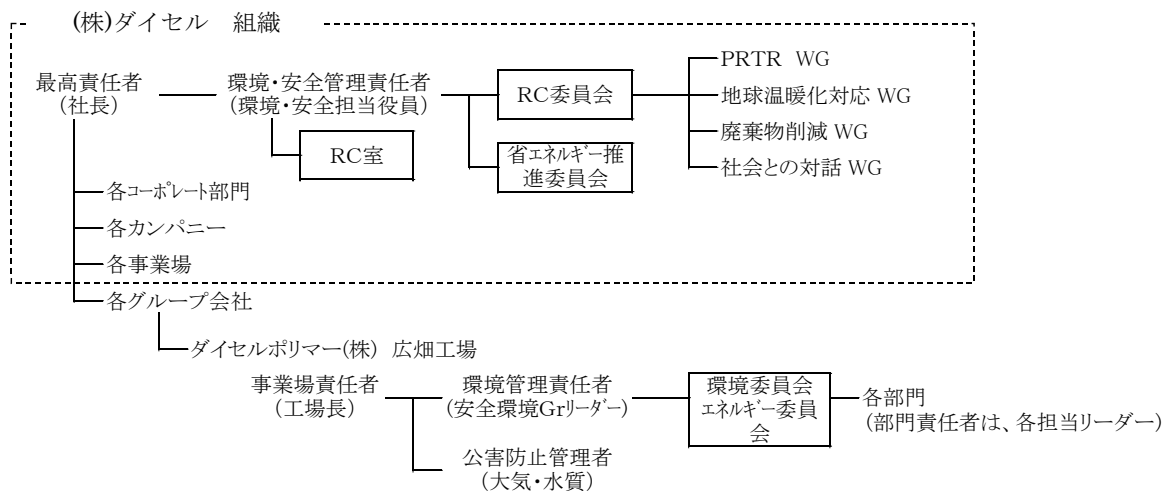
環境方針として以下の内容を定め公表している。

社会から求められる高機能かつ環境と安全に配慮した製品を供給することにより、広く産業の発展に貢献します。これを実現するために、環境方針を下記のように定めます。

1. 当工場の事業活動に係わる環境影響を常に認識/評価し環境汚染を予防し、以下の重点課題に取り組むと共に環境マネジメントシステムの継続的改善を行います。
 - ①環境負荷を軽減する新製品の開発
 - ②省エネルギー・省資源の推進
 - ③化学物質の適正管理
 - ④廃棄物の削減とリサイクルの推進
 - ⑤物流安全及び荷主としての物流省エネの推進
2. 当工場の事業活動に係わる環境関連法規制、及び当工場が同意したその他の要求事項を順守します。
3. 工場・部門別に環境目的及び目標を年度毎に設定し、達成状況を定期的にレビューします。
4. 環境マネジメントシステムに適合した行動を行うよう環境方針に沿った教育訓練を行います。

計画や年度ごとの取り組み状況については、(株)ダイセル ホームページ並びに、「CSR 報告書」で公表する。

1-2 環境保全活動に関する組織体制



2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画
<p>省エネの推進 過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均1%以上改善に取り組む。</p>	<p>シート製造設備の運転停止時の固定電力削減、ボイラー燃料の管理強化による都市ガスの使用量の削減、空調機の省エネタイプに更新、蒸気トラップ管理システム導入による蒸気使用量削減、照明のLED化による電気使用量削減等を行い、原油換算317kLの削減を行った。但し、シート製造設備において、換算製造量で、10千ト(14%)の減産、塗布改良試作等に伴う立上停止の増加、品質不具合などによる直行率悪化で、原単位が悪化。又、コンパウンド工程では、品種構成(低フィード量品種の製造)による稼働時間延長などにより原単位が悪化等により、過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均101.2%と改善できなかった。</p>	<p>過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均1%以上改善に取り組む。</p>
<p>地球温暖化ガス排出量削減 温室効果ガス排出量(対2005年)削減の取組み</p>	<p>燃料転換・省エネの推進により温室効果ガス排出量(対2005年)を、14%削減したが、エネルギー使用量の増加により、対前年4%程度増加した。</p>	<p>継続して削減に努める。</p>
<p>大気汚染物質、水質汚濁物質排出量監視 現状で十分低い値を維持できているため、現状維持の監視を行う。</p>	<p>環境監視計器による監視体制を維持し、大気汚染物質、水質汚濁物質の排出量について適正に維持されている事を確認している。</p>	<p>継続して実施する。</p>
<p>廃棄物適正管理 ゼロエミッションへの再挑戦への下地作りと、リサイクル率回復を図る。</p>	<p>処理委託先での適切処理の確認を実施した。又、外部屑売却量の減少により、埋め立て率：3.9%、リサイクル率：87.9%にとどまった。</p>	<p>リサイクルアイテムの探求によりリサイクル率をアップする。</p>
<p>化学物質適正管理 SDSの完全収集</p>	<p>新規取扱化学物質のSDSを完全に収集を行った。(31物質) 制改訂から10年以上経過したSDSについて再度提出依頼を行い、SDSの最新化(68物質)を行った。</p>	<p>継続して実施する。</p>
<p>環境コミュニケーション 環境情報の公開に努める。</p>	<p>2016年版環境・安全報告書を作成し、ご来客等に配布した。 ダイセルグループ会社として(株)ダイセルの環境・安全報告書にデータに記載し、ホームページに掲載している。</p>	<p>継続して実施する。</p>
<p>環境教育 環境方針に基づく環境保全に関する従業員教育の実施</p>	<p>環境教育計画に基づく教育を実施した。 事業所RC大会を開催し、全従業員へ環境情報について教育を行った。</p>	<p>継続して実施する。</p>